

古文書を読む会学習記録

作成日 平成25年5月11日

開催日	平成25年5月9日	時 間	9:45 ~ 12:00
場 所	金沢地区センター小会議室	出席人数	13 名
講 師	真田雅行氏	作成者	伊達一雄
テーマ	第二学習 柴村斎田家文書		
概 要	<p>1 以書付歎願仕候 嘉永2年(1849年)久良岐郡柴村の百姓七三郎の無実を親類や名主らが連印して泥亀新田の名主永嶋段右衛門に出した嘆願書。七三郎が何をしたかは書いてないが、取り調べを受けている同村の甚之助に関わったと疑われている。しかし、事件が起きた時は野嶋浦の船に乗って江戸表に向っていたと述べてアリバイを主張している。これに対し、段右衛門が役人に出した「言い分に間違いがないので御憐憫の御沙汰をと」嘆願した書状と、柴村の役人が役所に出した七三郎の嘆願書の丸写し。</p> <p>2 以書付歎願仕候 こちらは百姓甚之助と親類らが永嶋段右衛門に出した嘆願書。甚之助は手鎖、腰縄を付けられ村に預けられたとあるが罪状は不明。但し、是迄素行が悪く親類や村役人の意見も聞かず、大酒を飲み意気地がないので不審な者と思われたのは当たり前だ。今後は必ず改心し、村の主立った人の意見に従い「正路専一心掛、農業出精、尚渡世向相励、老年之両親安心為仕永続仕度 申聞候二付」(正しい道を心がけ農業に精を出して仕事に励み、年老いた両親をずっと安心させるよう申し聞かせたので)御慈悲の御沙汰を仰せ付け下さいと名主の段右衛門に嘆願している。</p> <p>永嶋段右衛門: 金沢の新田開発を推進した永嶋家の当主が継いだ名前。 この文書に出てくるのは九代目の忠篤で号は亀巢(1808~1891)。 嘉永6年に相模警備の熊本藩から相模・武蔵50余ヶ村の「大取締」に任命された実力者である。泥亀新田開発の功績を称える「永嶋亀巢翁功德碑」が野島の旧宅跡に建っている。また永嶋家の初代祐伯(号は泥亀)以下の一族の墓は洲崎の竜華寺にある。</p>		
補助資料	特になし		
備 考			
次回予定	平成24年5月23日 10:00 ~ 12:00 於: 金沢公会堂3号室 富士・大山道中雑記		